

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 7 月 14 日 9:55AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 50,500～73,500 円
(TOPIX) 3400～4180

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～53,300 ドル
(S&P500) 6300～7700

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～30,800
(ナスダック総合) 20,700～27,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～164.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～102.720

エリオット波動とは

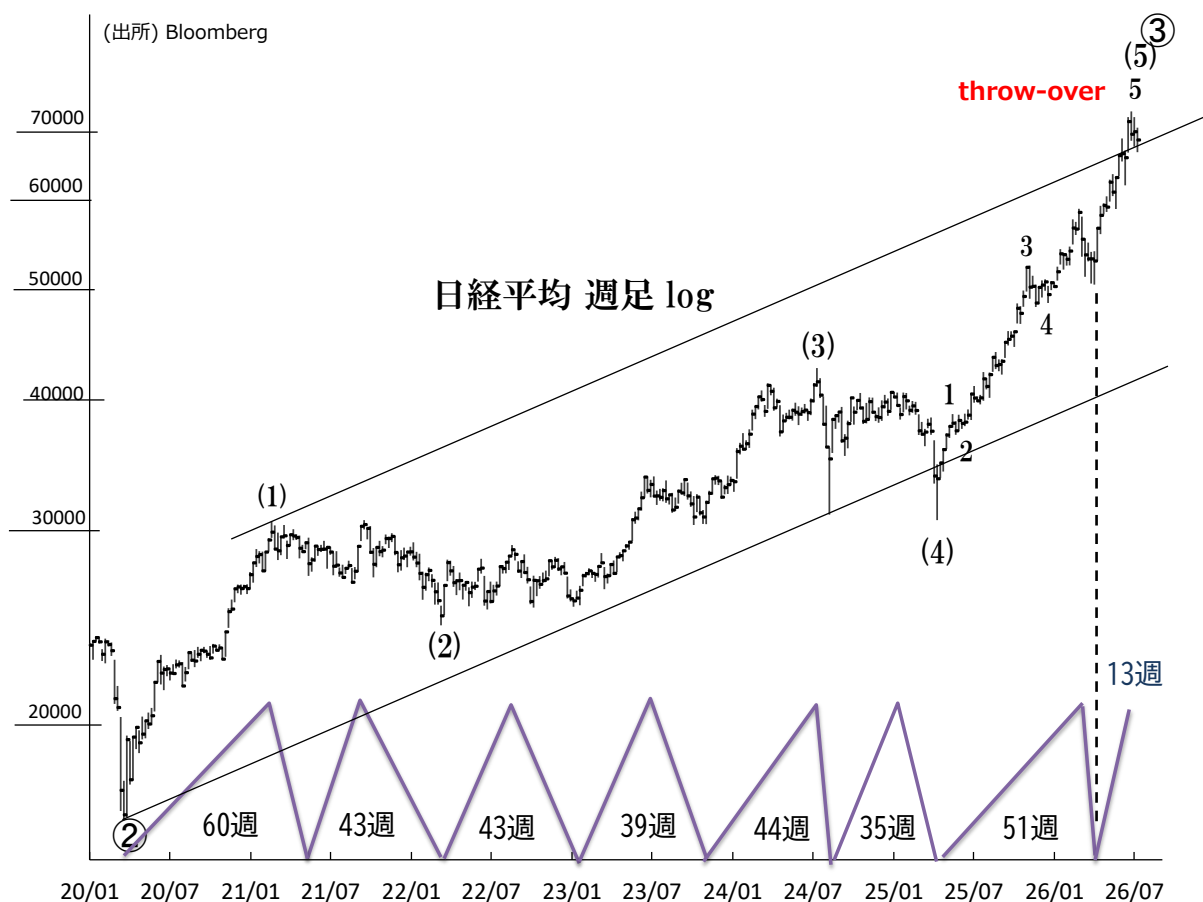
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

26 年 6 月に 17 年サイクル高値を付けた可能性があります。

高値を付けた 26 年 6 月まで、08 年 10 月大底から 212 カ月(17 年 8 カ月)、09 年 3 月二番底から 207 カ月(17 年 3 月)が経過しています。

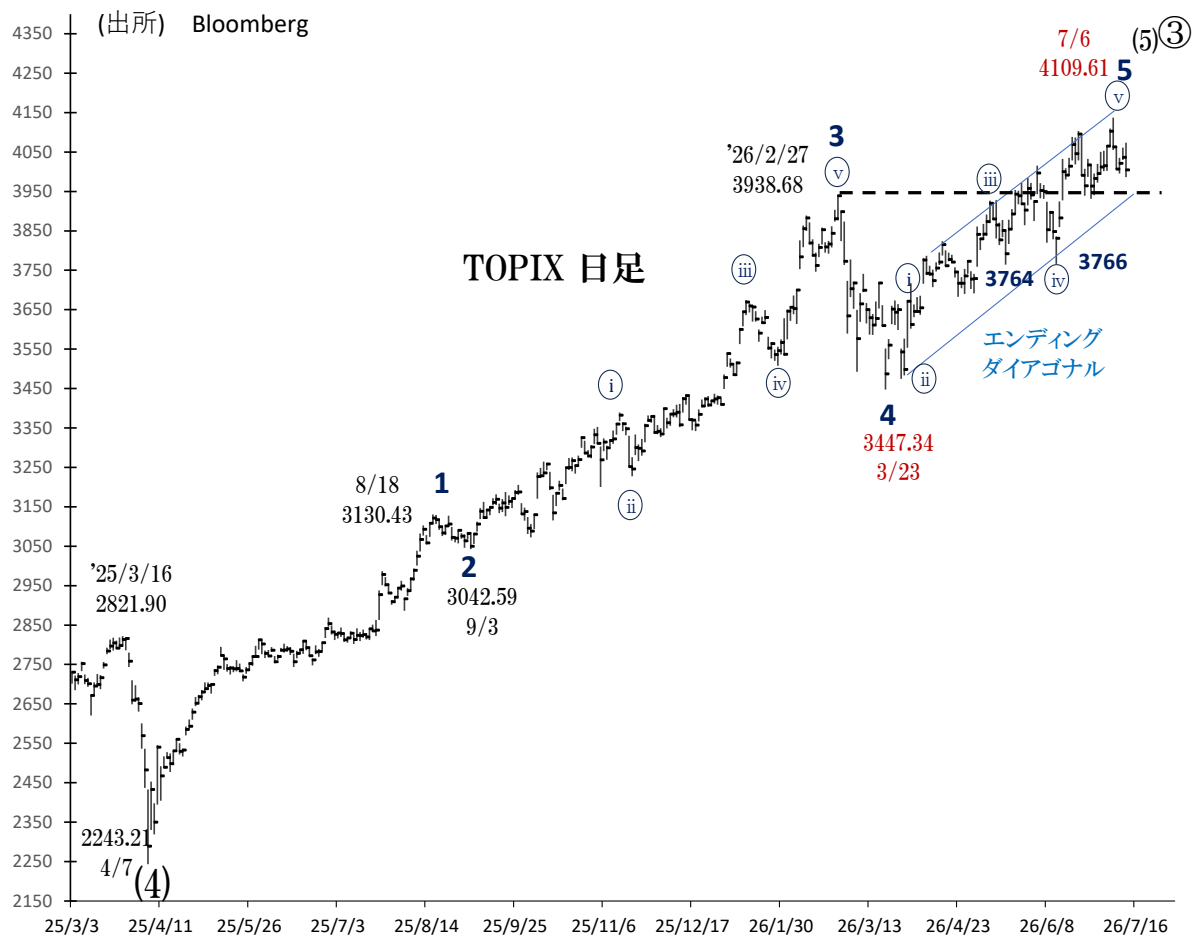
72,831 円(6/22)が日経平均プライマリー第③波の天井とすると、プライマリー級第④波による調整が始まったこととなります。

現行の週次サイクルは、今年 3 月 31 日安値(50,558 円)から始まりました。今回の週次サイクルは弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きい。今サイクルの上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)でした。サイクル全体を 37 週～53 週(※)とすると、6 月からの下落期間は 24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。

ここからすると、日経平均は今年 11 月～来年 3 月にサイクル安値を付けるとみられます。

なお「レフト・トランスレーション」という前提に立つと、サイクル安値はサイクル始点水準(50,558 円)を下回るとみるのが適当です。

(※)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。

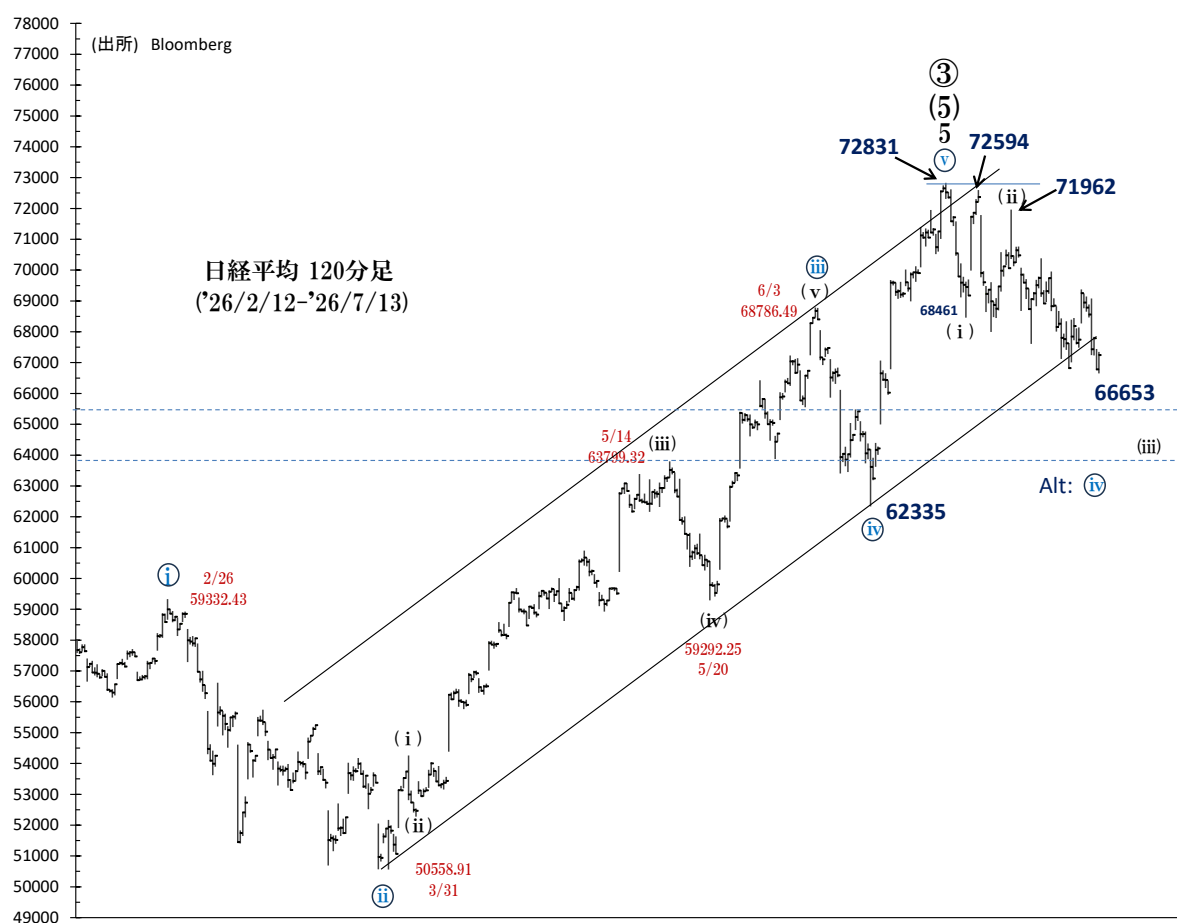


[TOPIX]

7月6日に一時最高値を更新しました(高値 4109)。日経平均より TOPIX が遅れて高値を付けるのは珍しく、この点には違和感があります。もっとも、3月安値からの第5波「エンディング・ダイアゴナル」が天井パターンであることに変わりはありません。

ダイアゴナルから下放れた市場価格は、パターン開始水準まで速やかに下落することが通常です。引き続きエンディング・ダイアゴナルが完成したかを、見極めたいと思います。3931(6/26 安値)を割ると、それはプライマリー④波の調整入りの最初の合図です。

プライマリー④波の調整規模は、プライマリー①波(2018年1月～20年3月)の下げ率(37.2%)と同等か、それ以上の大きさになると思われます。



[日経平均]

7月13日に一時66,653円まで下げ、この時点で6月22日高値からの下げ幅は6000円を超えました(6,178円)。加えて、この日の終値は3月からの上昇チャネル下限を下回っています。

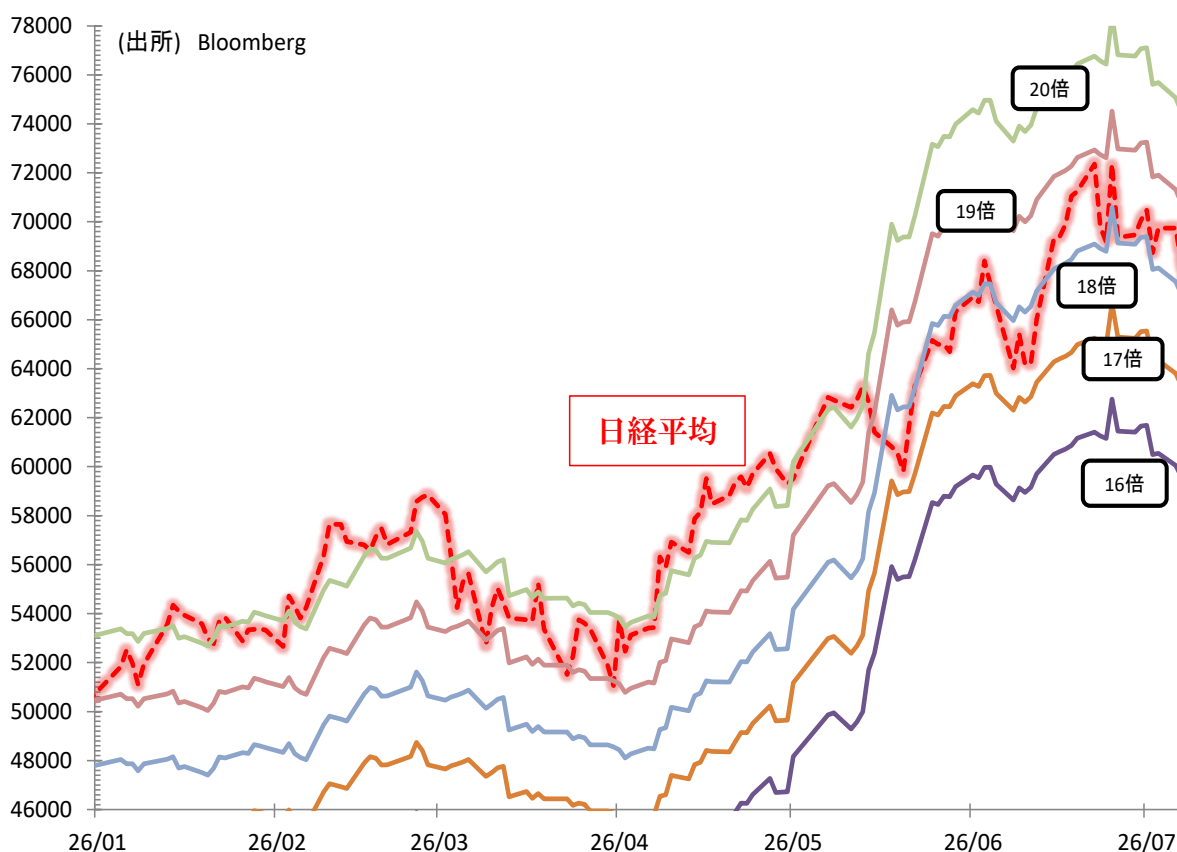
71,962円から第(iii)波による下落が進行中という見方が正しければ、今週の日経平均は下げ足をさらに強める可能性があります。

第(i)波が4370円幅下げたことから、第(iii)波の下げ幅は第(i)波の1.618~2倍(7070円~8740円)となるのがノーマルです。ここから求められる第(iii)波ターゲットは[64,892円~63,222円]です。

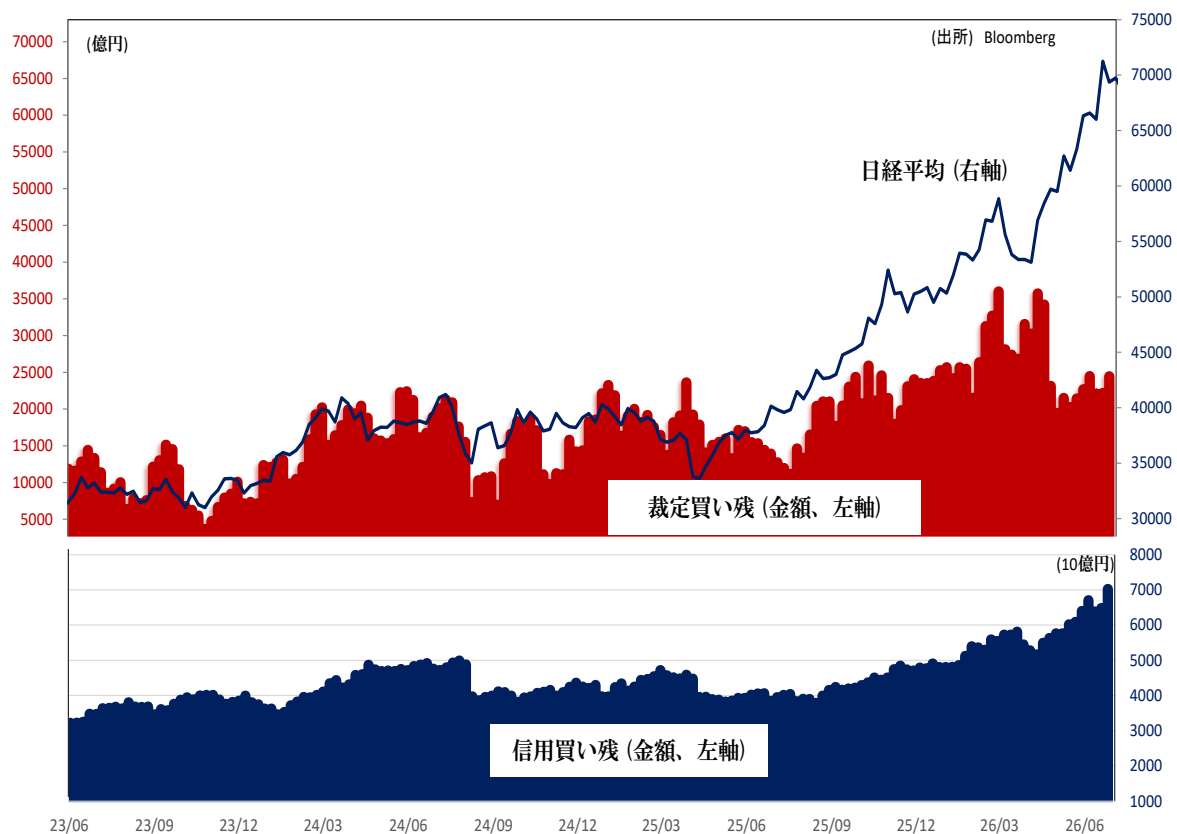
もっとも後述のように、米国株に「最後の上昇」シナリオがあり、日経平均に関しても代替案が必要かもしれません(Alt)。マルv波による上昇が始まると、それにより日経平均は最高値を更新します。それを以てプライマリー③波は完了することになります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

7月13日の日経平均予想PERは17.96倍、予想EPSは3744円でした。過去最高の予想EPSは3922円(6/25)です。



[裁定買い残と信用倍率] (7月3日時点)



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

7 月 7 日に付けた最高値(53,289ドル)は、S&P500 と「未確認」の天井パターンを継続中です。S&P500 の高値(7620)は 6 月 2 日に付けています。

3 月からの上昇 C 波は、マル i 波～マル v 波から成る「拡大ウェッジ」を形成しているとみられます。足元は引き続き、マル v 波がいつ完成するかの秒読みにあるとみています。

52,069 ドル(7/8 安値)を割ると、最初の弱気シグナル点灯となります。



6月2日が天井とすれば、目先のにもマル iii 波の下落がスタートするはずです。7294 を割るとマル iii 波入りが濃厚となり、本格的な調整に入ることでしょう。

SOX 指数

最初の「カラカサ」は6月3日に現れ、その後5日間で約16%下げる動きを先導しました。

2 回目の今回は、6 月 22 日高値から 7 月 7 日の安値まで 18.3% 下げ、より大きな下げになっています。

加えて、足元水準は三尊天井パターンのネックラインに近づいています。ネックライン割れが明確に確認されると、それは AI・半導体株バブル崩壊の可能性を高めるでしょう。

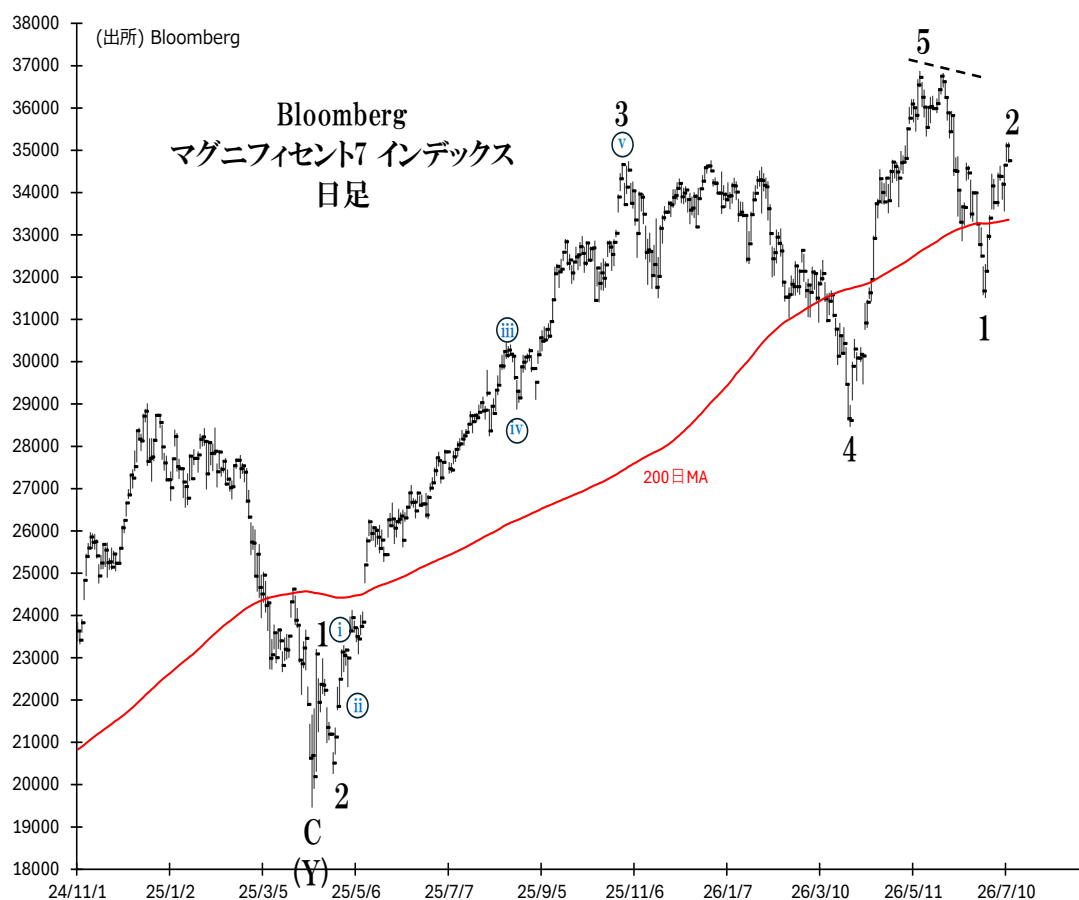


Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

この指数は 5 月 14 日に最高値を付けました。マグ 7 は他の主要指数より先行して高値を付けており、これは重要な天井パターン(未確認)です。

5 月 14 日の高値から 6 月 26 日安値まで 5 波動構成(インパルス・パターン)で通算 14.5% 下げました。その後の上昇はリバウンド(第 2 波)とみています。

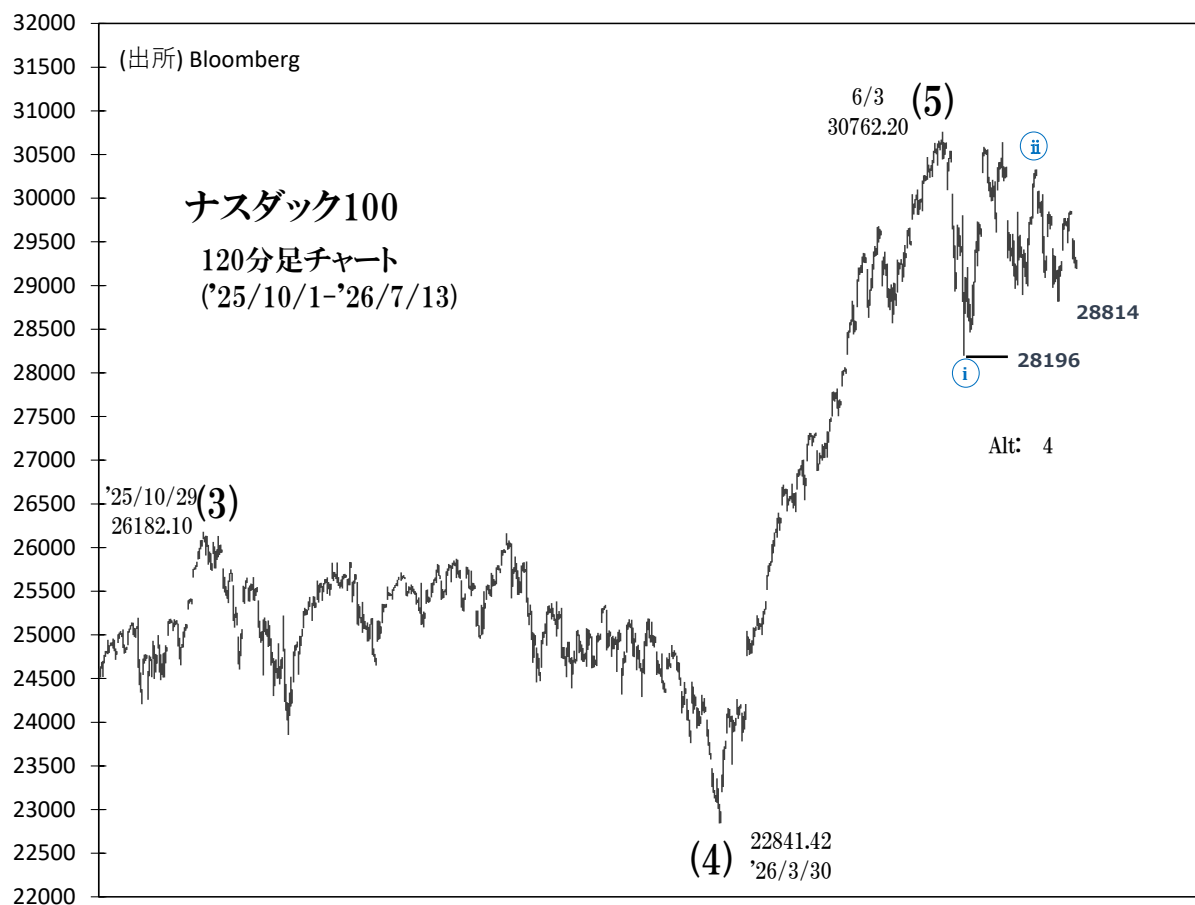
この見方が正しければ、まもなく次の下落インパルス波(第 3 波)が始まるでしょう。そして次のインパルス波の下げは、最初の 14.5% 下げを優に超えるものになるでしょう。



[ダウ輸送株平均]



ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

足元はマル iii 波の下落が展開中とみられます。28,814 を割ると急落場面入りの可能性が高く、この場合、近いうち 6 月 10 日の安値(28,196)は大きく破られることでしょう。

一方、S&P500 の代替カウントと同じように、6 月から足元までの基本横ばいの動きはトライアングルであり、第 5 波による保ち合い上放れが近い、とみることもできます。

第 5 波によりナスダック 100 は最高値を更新する可能性があります。しかし、その「最後の上昇」によって長きにわたる強気相場は終わりを告げ、そこから大弱気相場が始まるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

以下のように二通りの有力波動カウントが存在します。いずれも米ドル/円(以下ドル/円)上昇の終焉が近いことと、円高スタート接近を暗示します。

[波動カウント 1]

22 年 10 月からの(B)波「トライアングル」を完成後、25 年 4 月からは(C)波の上昇にあります。(C)波完成を以て 2011 年来のダブル・ジグザグ(W-X-Y)は完成し、その後は、大きな下落(ドル安・円高)を迎えることになります。

[波動カウント 2]

21 年からの(Y)波は、波動間の重なりが目立つ(A)-(B)-(C)-(D)-(E)のウェッジ・パターンを描いています。足元は(E)波の上昇にあり、それはいつ終わってもおかしくありません。

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1 ドル=139 円～140 円です。日本円は金利差からの妥当な水準より極端な過小評価にあり、それは 1 年以上に渡り続いています。

加えて購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1 ドル=97 円～103 円です。長期的にみても現在の日本円は著しく過小評価されています。

「円安バブル」の崩壊は、円キャリー取引の巻き戻し(円買い戻し)によって引き起こされるでしょう。



【日足 エリオット波動分析】

25 年 4 月(139.877 円)からの上昇(C)波は、(C)波は 5 つの波(1~5)で構成されます。154.983 円(5/6)からは第 5 波目に当たります。

足元の 39 年半ぶりの 162 円台が一時的なものになるかを見極める局面が続きます。

もしも第 5 波が終わったとすれば一例年 7 月の円高傾向(7 月円高アノマリー)も注目されます—差し当たり 25 年 4 月からのサポートライン(今週は 158 円台後半)を試す可能性があります。

金利差からのドル/円推計値

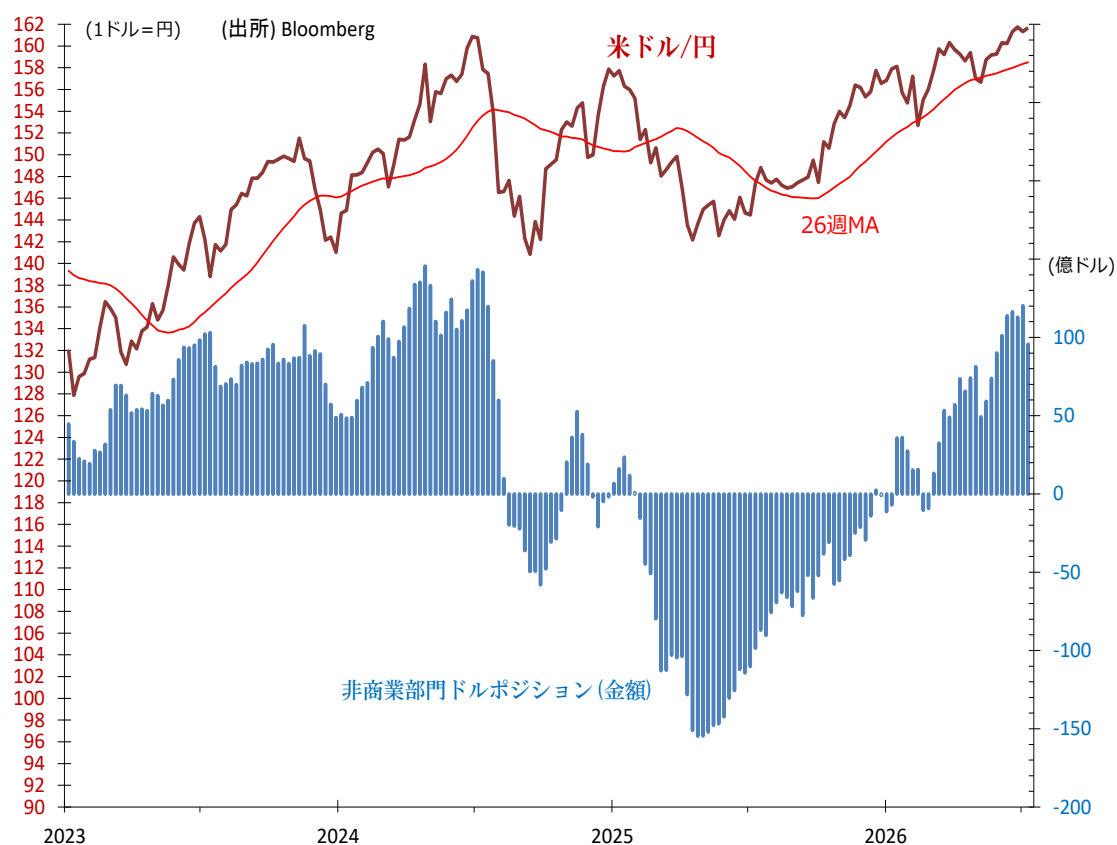
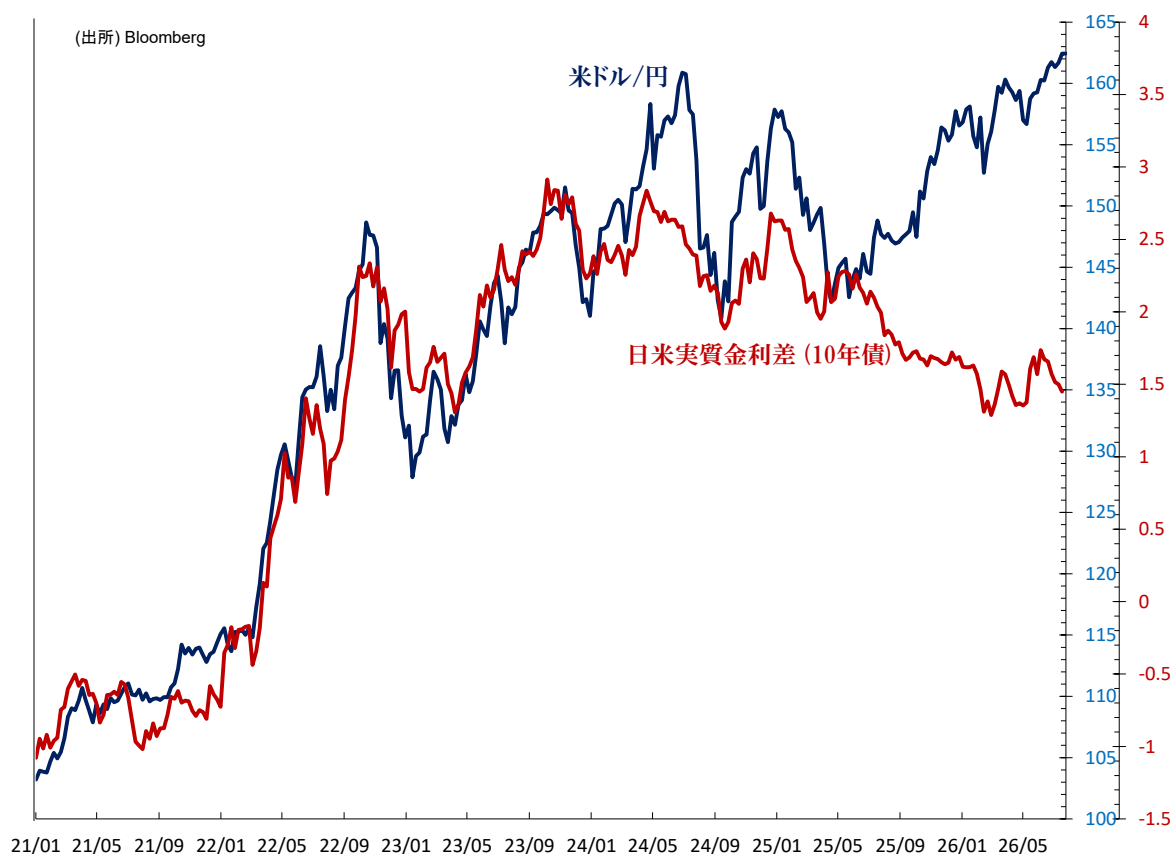
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.814 円]です。

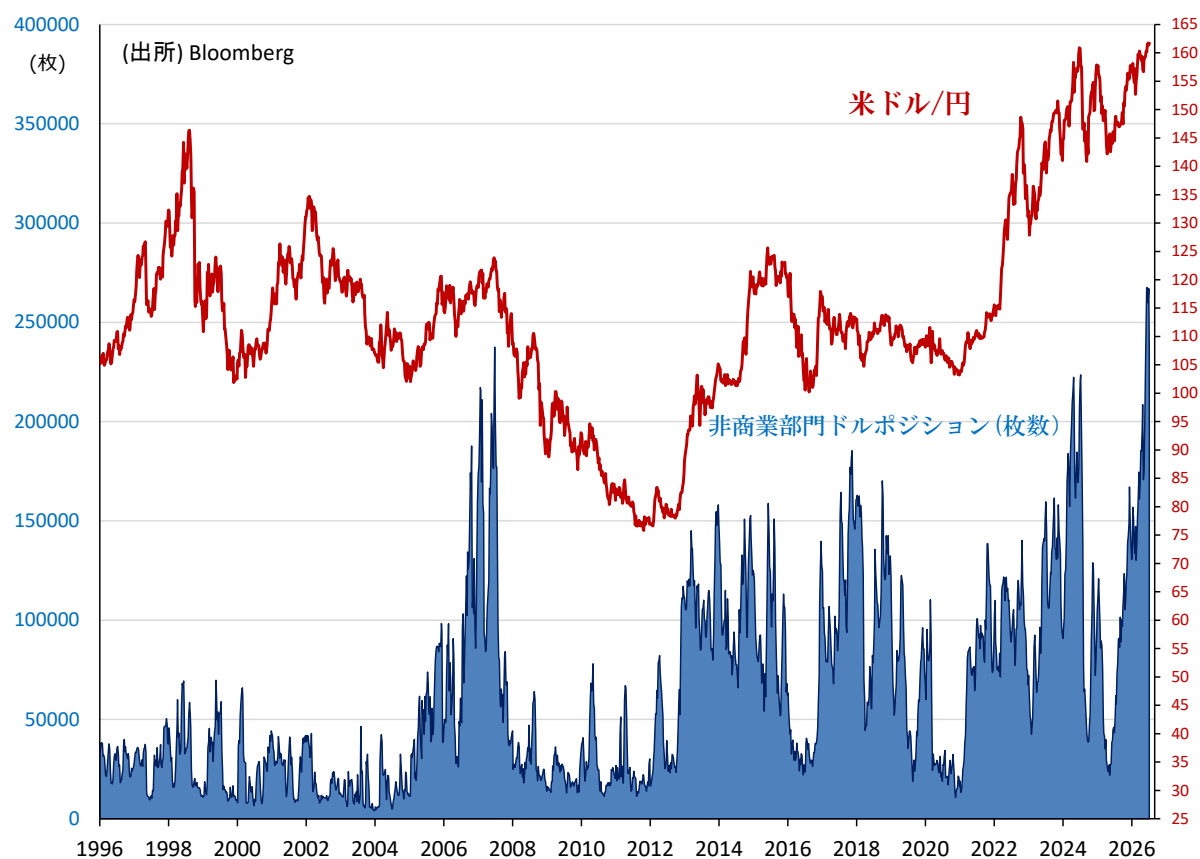
円売り持ち高が 2 週ぶりに縮小 (2026 年 7 月 7 日時点)

IMM 通貨先物市場において、投機筋(非商業部門)の円売り持ち高は、前週の 119.3 億ドルから 95.69 億ドルへ、2 週ぶりに縮小しました。

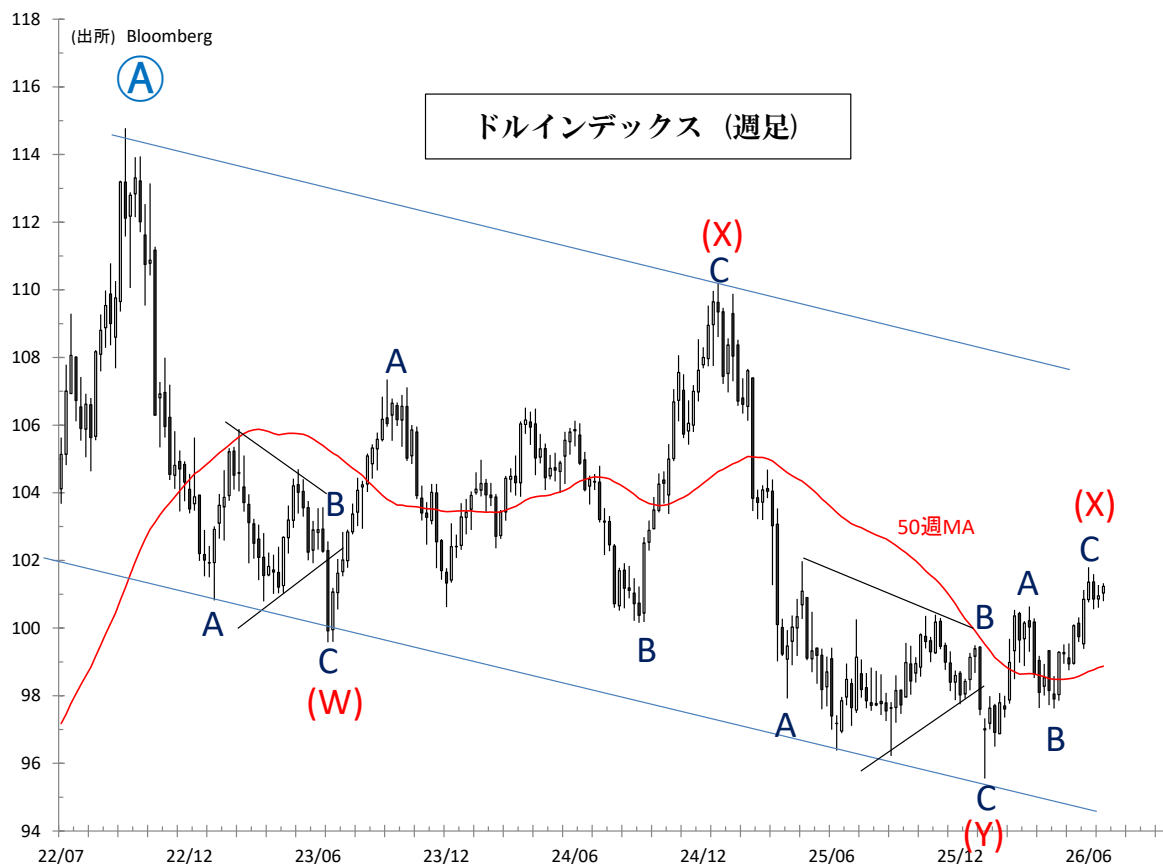
円売り枚数は過去最高から減少(円売り巻き戻しの兆し?)

7 月 7 日時点で、投機筋の円売り持ち枚数は 23 万 6025 枚。6 月中旬の 26 万 7507 枚からは減少しました。一時的なものか、あるいは円売りの巻き戻しの兆しなのかを、注目したいと思います。





ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

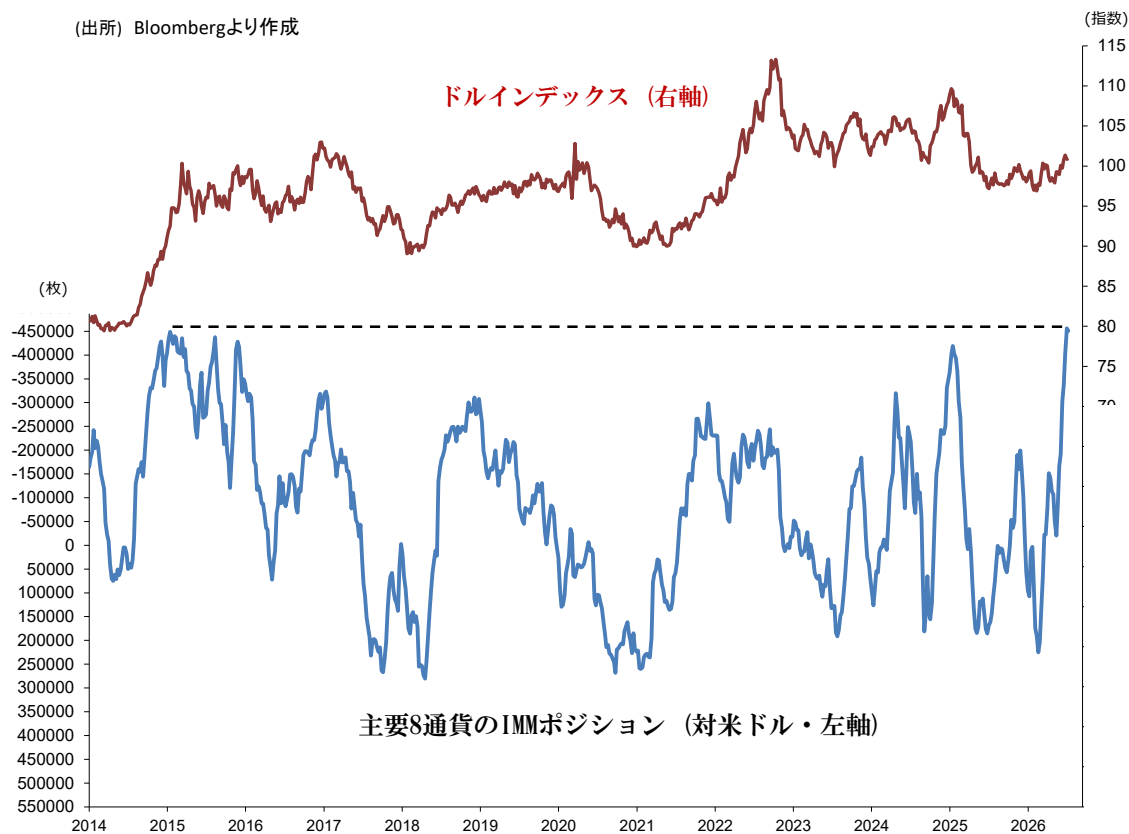
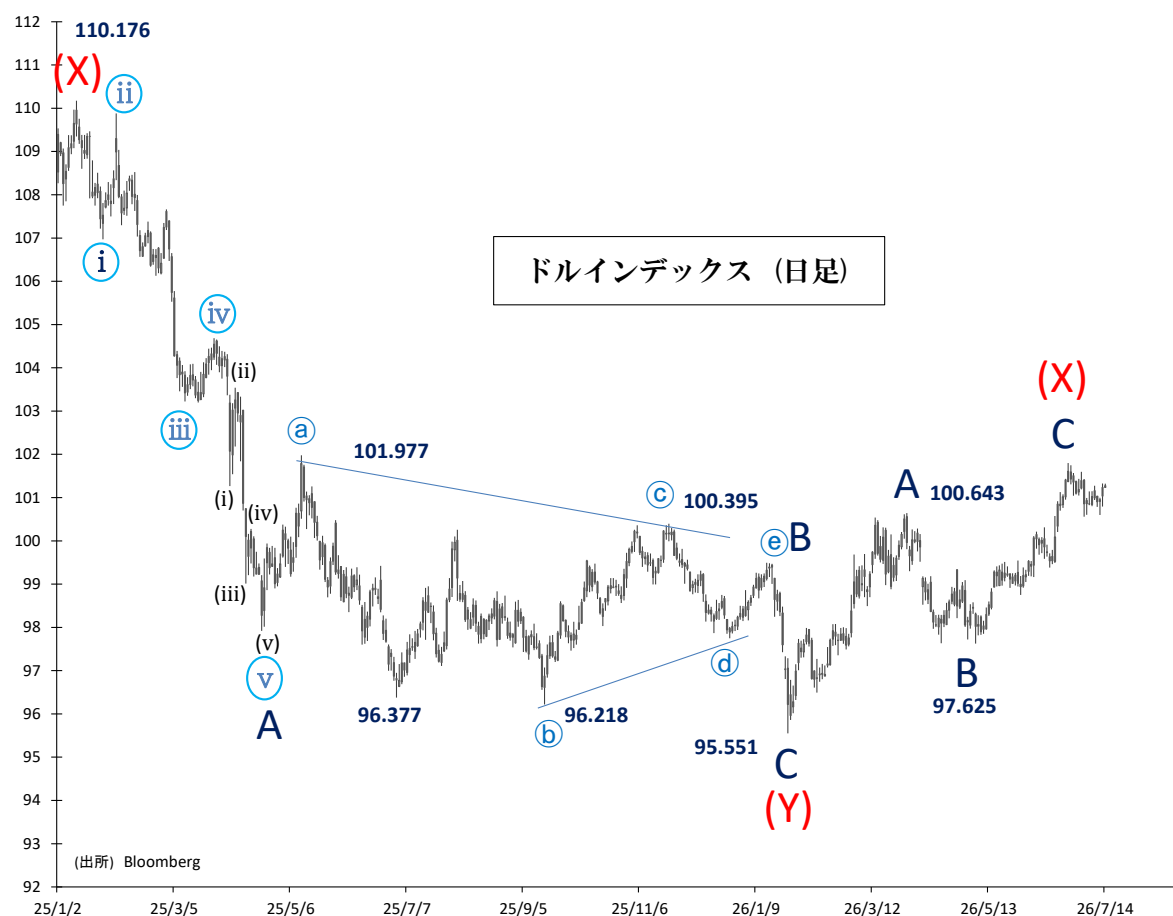
22 年 9 月高値からのドル安③波は、「トリプル・ジグザグ(W)-(X)-(Y)-(X)-(Z)」のコースを辿っているとみられます。

今年 1 月安値からのドル高は、③波中の(X)波であり、それが終わると、次は 3 番目のジグザグ(Z)波が展開されていく、と思われます。

6 月 24 日に付けた高値(101.800)は、ターゲットの[101.138-102.717]内で付けており、それを以て(X)波が終わるかに注目です。

投機筋のドル合成ポジションは過去最高の買い持ち高に(たまるドル安マグマ)

投機筋によるドル合成ポジション買い持ち枚数は、データ遡及可能な 2000 年以降の最大に膨らみました(6 月 30 日時点で 45 万 5948 枚の買い持ち)。投機筋は過去最大のドル強気となっており、これはドル安への燃料となります。例年 7 月はドル安になる傾向が強いことが知られています。今年前半のドル高の終了、ドル安への転換に注目したいと思います。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア